

キジトラ

Company Deck **v1.2**

仕事を再プログラムする

キジトラは人とAIが成果を出し続けるために、
仕事そのものをメタプログラミングする会社です。

会社名

株式会社キジトラ / Kijitra, Inc.

代表者

池田 大季

設立

2026/07/21

事業内容

新規事業・プロダクトの検証開発、およびAIを活用した
業務オペレーションの設計・構築支援

AIを足すだけでは、 仕事は変わらない

AIに作業を任せることと、AIとともに働くことは、同じではありません。

情報が複数の場所に散在し、判断基準が個人の頭の中にとどまり、誰が何を承認し、AIがどこまで実行してよいのかも曖昧なまま。そこにAIを導入しても、従来の仕事が少し便利になるだけで、革命的な変化とは言えません。

必要なのは、既存業務にAIを付け加えることではなく、情報・意思決定・権限・承認・実行・学習の流れを、人とAIの双方が理解できる形に組み直すことです。

キジトラは、仕事の構造そのものを再設計します。実行の結果やそこで生じた例外が次の判断へと還元され、継続的に成果を生み出す「閉じたループ」を現場に実装する。私たちがつくるのは、単なるAI製品ではなく、成果を生み続ける仕組みです。

2つの事業

人間ならではの強みを最大限に引き出す、AI主導の検証・改善ループを構築することで
事業の成長と組織の生産性向上、それぞれを阻む固有の課題を解決します。

事業01

共闘型の検証開発

Shared Upside Partnership

定報酬と成果連動を組み合わせ、
事業成果に向けて学習を回す。

事業02

AIオペレーション構築支援

AI Operation Transformation

現場業務に入り、組織の実行系
そのものを再設計する。

事業01

共闘型の検証開発

事業成長に、仕組みや経験以上に重要なのは、たとえ外部パートナーであっても、関わるすべての人が事業を「自分たちのもの」として捉えることです。同じゴールを見据え、リスクとリターンを分かち合いながら、判断と実行を積み重ねていく必要があります。

最小限のコストでMVPを立ち上げ、限られた時間と資源を価値検証に集中させる。得られた学びをもとに検証を繰り返し、プロダクトを磨き続ける。事業会社では合理的とされるこの進め方も、発注者と受注者という関係では、利害や評価基準の違いから実現が難しい。

キジトラは、契約や役割分担を含む「座組」から、成果に向かって共闘できるチームをつくる。確度の高い仮説を素早く形にし、市場の反応から学び、次の打ち手へつなげる。この本質的なサイクルを、愚直に、速く、回し続けます。



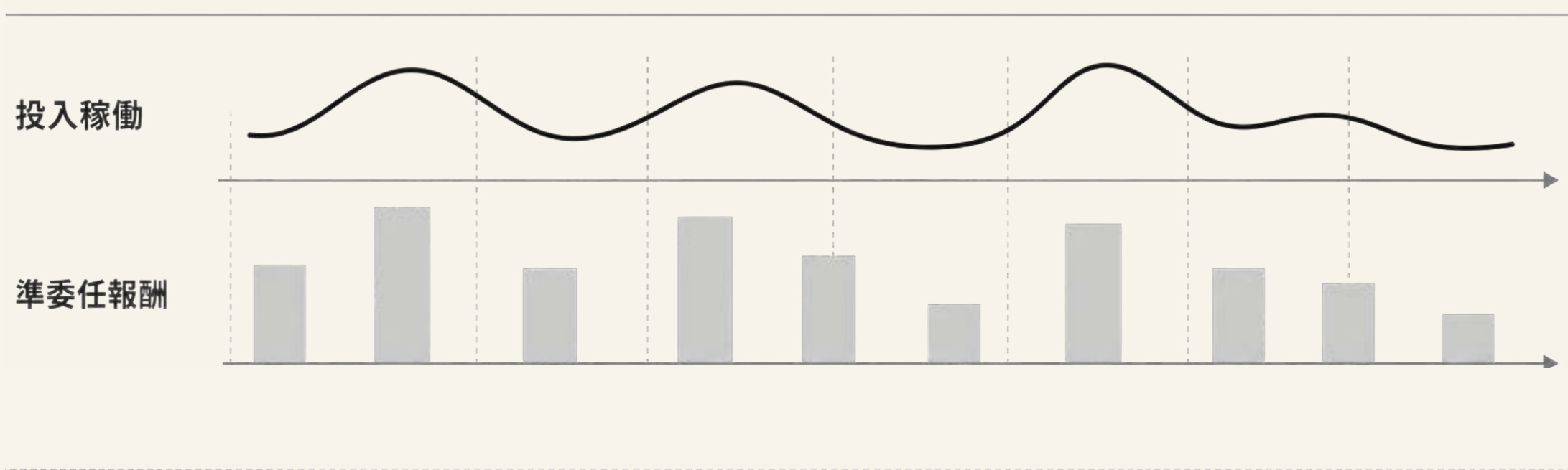
パートナーと 同じ成果を 共有できる座組へ

キジトラは、パートナーと目標を共有し、
同じ成果に向かってともに歩める関係を大切にしています。

成果にかかわらず、稼働時間に応じて報酬をもらう従来型の
支援とは異なります。最小限の基本報酬と成果連動型の
報酬設計によって、リスクとゴールを共有します。

重視するのは、作業量ではなく、生み出した成果と、
そこから得られる学びです。その一つひとつを次の打ち手に
つなげ、パートナーとともに最善の選択を重ねていきます。

一般的な準委任開発



概念図

成果指標、計測方法、責任範囲は案件ごとに合意します。

仮説検証ループを設計し、 実行、改善

数多くの仮説を素早く試す力と、結果をもとに成功確率を高めていく力。
その両方をスタートアップの現場で培ってきたメンバーが、AIを活用し、
従来の常識を超えるスピードで市場検証のサイクルを設計・実行します。

私たちもパートナーとリスクを共有するからこそ、勝算を高めながら、
1度の失敗による損失を最小限に抑え、勝つまで負けない方法を選びます。
まずはコストを極限まで抑えたMVPを素早く構築し、価値が検証されるまで継続的
にアップデートできる仕組みを整えます。

検証を重ねるたびにプロダクトが磨かれるだけでなく、その検証と改善を
支える仕組み自体も進化していく。一つひとつの実行を学びに変え、より速く、より
確度の高いサイクルへと育てていきます。



事業02

AI主導の業務フローを、 組織の中に実装する

現場に入り、業務とそこで働く人への理解を深める。そこから得た知見を、AIが安全かつ継続的に働ける仕組みへと変えていく。二つのアプローチを組み合わせ、組織の業務を本質から最適化します。

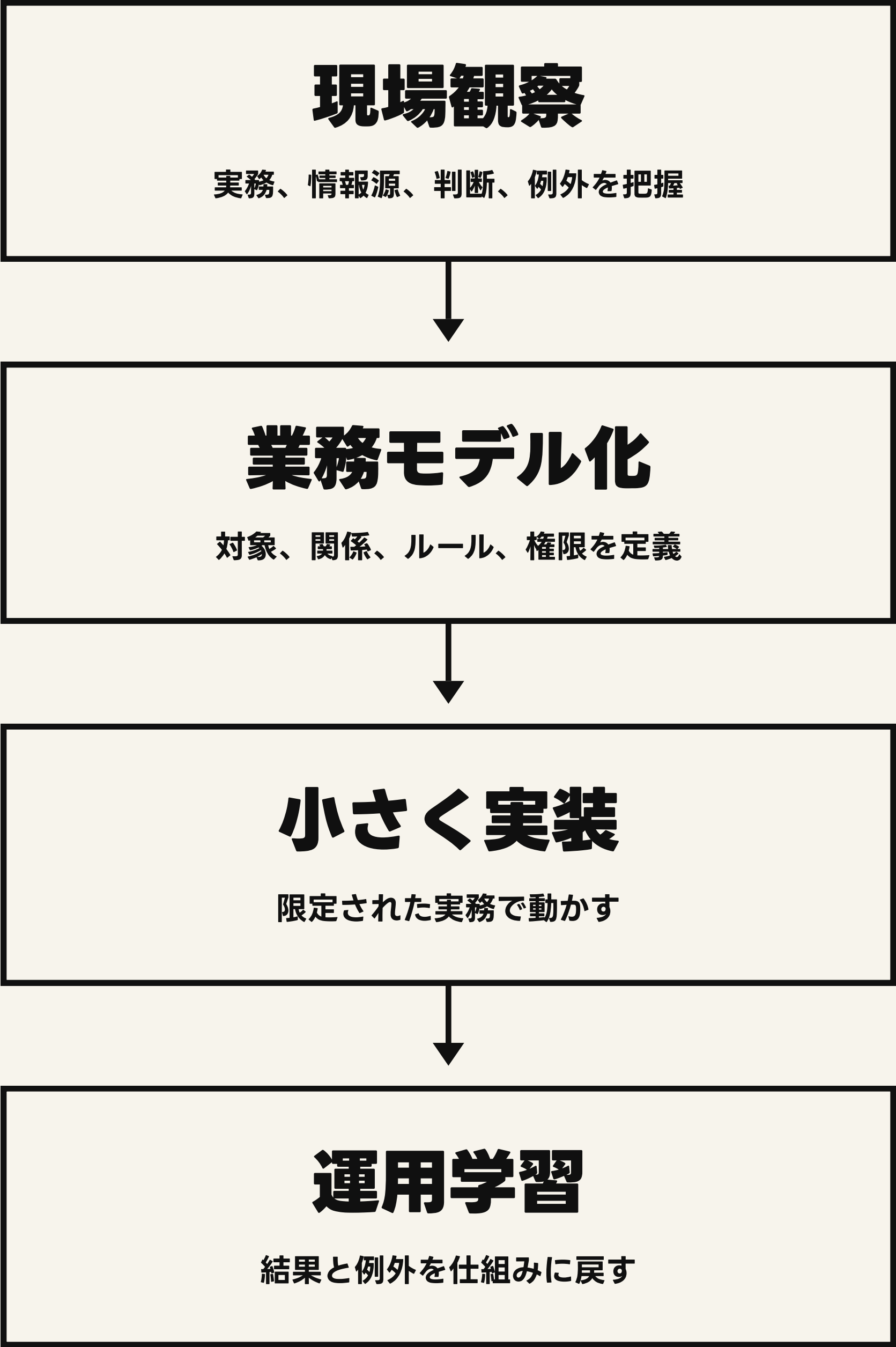


現場に入り、 実際の仕事から実装する

組織も、そこで働く人も、日々の業務も、一つとして同じではありません。
だからこそ、あらゆる現場に当てはまる唯一の正解はないと考えています。

まずは現場の業務フローと顧客に提供している価値を深く理解し、その価値を支える組織の強みと、オペレーションを滞らせている課題を見極めます。
実務を間近で体験することで、明文化されていない判断基準や、現場で生じる例外まで捉えます。

いきなりすべてを変えようとせず、小さな本番業務から始め、検証と改善を積み重ねる。段階的に効率化の範囲を広げながら、現場で実際に使われ、成果を生み続ける仕組みへと育てていきます。



AIをクラウドで 安全に動かす環境を作る

AIが働くための環境とルールを、組織で共有・管理できるクラウド基盤として構築します。

業務に必要なコンテキスト、権限、スキル、承認ポイント、実行環境を一元管理。人とAIが同じ情報とルールに基づいて業務を進めることで、属人化を防ぎ、安定したオペレーションを実現します。

これらの業務フローはTypeScriptでコードとして定義されるため、変更内容を確認・記録しながら、日々変化する現場に合わせて柔軟に改善できます。さらに、AIの作業環境を実行単位で分離し、必要な権限だけを付与。重要な操作には人の承認を挟み、実行履歴を残すことで、スピードと安全性を両立します。



なぜ我々がやるのか

WHY KIJITRA

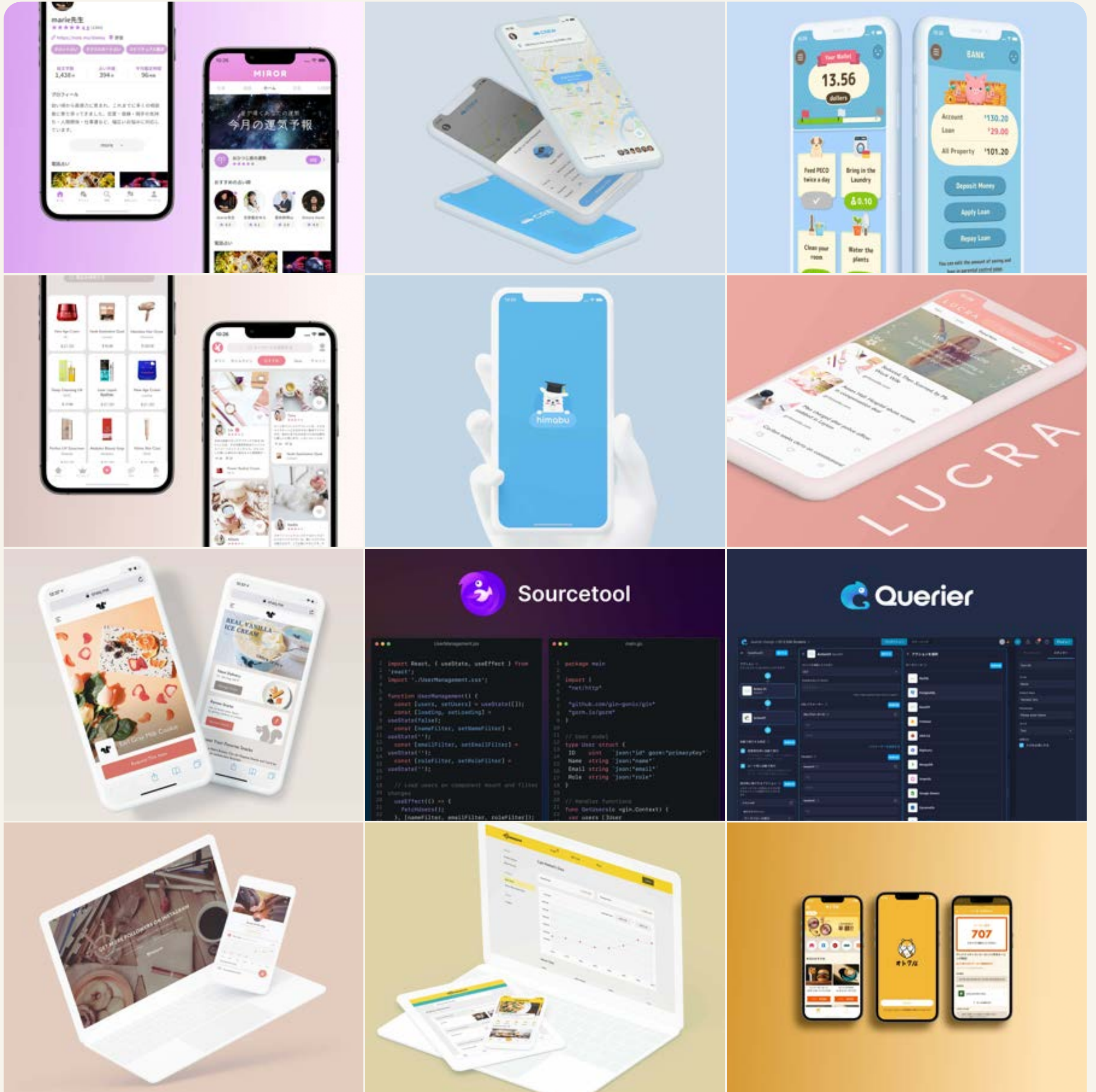
作ってきたのは仕組み

UIデザインという領域にとどまらず、事業と組織の内側に入り込み、チームと目標を共有しながら、その達成に必要な役割を横断的に担ってきました。

なかでも注力してきたのが、検証速度を高めるための仕組みづくりです。品質と開発効率を同時に高めるデザインシステムの構築や、デザインから実装までを滑らかにつなぐ協働プロセスの整備など、単発の制作物ではなく、チームが継続的に成果を生み出せる基盤をつくってきました。

根底にあるのは、仮説を素早く形にし、検証と学習の回数を増やすことが、事業の成功確率を高めるという考え方です。この原則は変わりませんが、AIの登場によって、その実現方法は大きく進化しました。

目の前の作業を一時的に効率化するだけでなく、業務全体を捉え直し、改善が継続する仕組みそのものを設計する。これまでの経験が、現在のAIが主導する業務設計と、再現性のある事業成長のための閉じたループの構築への情熱につながっています。



画像は会社設立前を含むFounderの実績

なぜやるのか

WHY WE DO THIS

本当に価値のあるものが 報われる世の中にしたい

アイデア、技術、時間、思考、経験、
本当に価値のあるものが必要な人に届き、市場から評価される、
そんな世の中に少しでも近づきたいと考えています。

ぜひ、お話ししましょう ITのことよくわからない、という方も大歓迎

むしろ

1. “さくっと”事業を市場に出したい
2. アイデアはあるが社内に開発リソースがない
3. 機動力のあるITチームを探している
4. この資料に共鳴してくださった方

t.ikeda@kijitra.com